

「CS便」エリア拡大

専用定温車両を順次導入

ダイセーログ

ダイセーログステイクス（永田勝志社長、東京都文京区）は、菓子の共同配送サービス「CS便」の対象

エリアについては、グループのダイセーエフリー二十四（田中孝昌社長、愛知県一宮市）と連携した拡大を目標している。

を、関東から東北、中京など各エリアに拡大する。定温管理が必要な菓子類を取り込むため、関東エリア2か所の物流センターで今月から、専用車20両を順次導入。来年夏をメドに、埼玉県杉戸町の共配物流センタ

リヤについては、グループのダイセーエフリー二十四（田中孝昌社長、愛知県一宮市）と連携した拡大を目標している。ダイセーログの菓子共配は、これまでドライを主体とし、メーカー15社が参加。一方、ダイセーエフリーはチルド輸送がメインで、菓子共配は3社程度と実績が少ない。両社のノウハウと



情報を共有化し、関西エリアを開拓するため、先月からキックオフ。将来的には、

寝台スペースを省き、積載率を向上させた専用車

東北―近畿エリアまでの広域CS便ネットワークを実現したい考えだ。

CS便の対象を定温菓子に広げるため、関東エリアで専用定温車両を導入した。新規顧客および既存顧客のチョコレート、チョコレート含有菓子、グミキャンデーなど定温管理が必要な菓子類をCS便に誘致するのが狙い。セ氏15度設定の4ト車で、積載率を向上させるために運転席後ろの寝台スペースを省き、庫内

（内寸）の長さ7尺、積載重量3ト1000キを確保している。

CS便は売上高全体の15%以上を占める中核事業となりつつあるが、少子化や人口減少など菓子類の消費減も予想される。CS便の倉庫管理システム（WMS）の刷新も計画しており、鮮度管理やトレーサビリティ（履歴管理）機能を充実。

「当面の目標では、CS便の参加メーカーを現在の倍の30社に増やしたい」（深沢健・執行役員CS便事業部長）としている。

（石井 麻里）